

半導体漫遊記

湯之上隆

(136)

前回で取り上げたDRI、その中には元エルRAMメーカー・サイピータの技術者もいる。私は、「サイノキングの成否は(日本と台湾の)技術者を集められるか否かにかかっている」ことを論じその後の行方を注視していた。

坂本氏は、「(中国00人規模の技術者をいことである。合肥市に、約1200億円を投じて、製品開発を行う工場を構える。開発工場とは別けて生産を行う工場を三つ建てる」とし、「最終的には、日本や台湾、韓国は、約800人の技術者を集める必要がある。坂本氏は、約800人の技術者として中国人を当てにしているようだが、果たしてうまくいくか。これまで中国で、半導体技術者が育たない上に定着しない」と述べている。

先行き怪しいサイノキング

合肥市と契約なるか

そのような時、週刊エゴノミストがサイノキングの坂本社長への直撃インタビューに成功した(6月21日号)。

よくぞ、1800人も技術者を集めることができたものと、まずは驚いた。その腕力や求心力には脱帽するしかない。

記事によれば、坂本社長いわく、「現在、日本・台湾を中心に180人ほど確保してお

怪しい。しかし、どうも開発には、現在集まっている日台の180人の技術者を核として、10

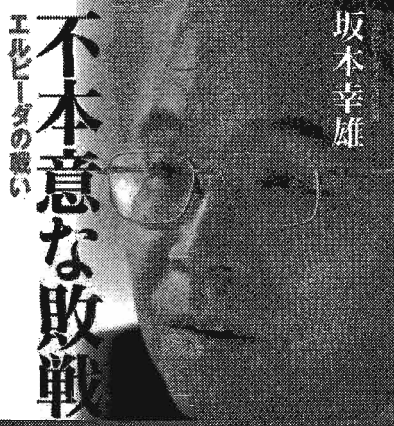
ていく。そもそも、始年俸」を要求すると、Mも生産できず、他国へのライセンスだってできない。つまり、合肥と契約しなければ、何もできないのではないか。

また、合肥市の出資で開発したDRAM技術は、何もうけないか。もう既に、1800人も技術者を集めてしま

しかし、「一生困らなだけでの報酬(恐ろしく一人当たり億単位のら、DRAM技術は開

前に、合肥市と契約できなかったら、開発工場は、サイノキングは、果たして合肥市と契約を結ぶことができるのか。今後の行く末に注目したい。

坂本幸雄



不本意な敗戦

倒産から1年半、社員をひとりも切らずに再生。

(微細加工研究所・所長)

坂本幸雄著『不本意な敗戦』(日本経済新聞社)